

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709558		
法人名	株式会社 和幸		
事業所名	グループホーム寿敬庵		
所在地	秋田県横手市十文字町腕越字山道端79-11		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年度に1ユニット寿敬庵棟、平成18年度に1ユニット江洋館棟を設立しました。利用者様の、その人らしさを引き出していけるように支援に努めております。建物の周りには、畑があり、できる方には畑仕事を手伝って頂いております。利用者様には、家庭的な雰囲気の中で、ゆっくり過ごして頂けるように努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年10月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとって馴染みの関係や入居前からの趣味等、これまでの暮らしを尊重して生活の中に取り入れ、職員及び関係者が協力して楽しみが見いだせるように支援されています。ユニット間の連携を図り、一人ひとりの状況を把握して更なるケアの向上に向けて取り組んでいこうと努力されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に、生活面・体調面と安心して暮して頂けるような支援に努めており、共有については、定期的に開催している職員会議で確認・見直しをして実践に結びつけている。	理念が運営方針と共に掲示されており、ケアカンファレンスの際に確認する機会をつくり、実践に繋げる努力をされています。	職員が身近なものとして体感できるよう理念を見直し、更に実践に結びつけていかれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的にボランティアの受け入れを行い、会議やイベント等には、地域住民の方たちも参加して頂き、交流をはかっている。	地域のお祭りや芋掘りに訪れる幼稚園児との交流も図られています。近所の理美容院を利用して地域との繋がりを持ち、散歩の際には声をかけていただいてホームを理解していただけるよう取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の際、行政・地域住民・ご家族様に参加して頂き、ご利用者様の状況と理解・活動内容を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、意見交換をしながら、アドバイスを頂き、サービス・運営の向上につなげている。	ホームの現況報告を行い、行政及び地域の方から情報、アドバイスをいただいてサービスの向上に活かされています。	誰が見てもわかるよう記録の仕方に工夫し、議題を検討して運営推進会議を今後のサービスの向上に更に繋げていける取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、市町村担当者の方にも参加して頂き、報告・意見交換を行っている。	制度上の不明点を電話や窓口に出向いて相談されている他、生活保護受給者が入居されていることから、福祉事務所職員とも連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的に勉強会を開きながら、正しい理解に努めている。	身体拘束委員会及び勉強会を通じて職員の理解を深めて日々のケアに努め、外に出たがる利用者には対応を工夫し、拘束をしないケアを実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設置し、定期的な勉強会を開きながら、正しい理解を持つと共に、防止対策として職員通しのコミュニケーション、良い雰囲気職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、制度については、理解しているが、活用に関しての見直しや話し合いの場は少なく、今後積極的に取り組む必要あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際にゆっくりと説明し、質疑応答をしながら納得して頂いている。納得された時点で、契約書に割印して頂き、お互いに保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望箱をホームに設置している他、直接ご家族様より、相談や要望が出た際にも、事務所全体で話し合いをし、運営に反映させている。	苦情が出されることはないものの、運営推進会議や面会時に意見等を出していただけるように働きかけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で、意見や提案が出た際には、事業所全体で話し合い、反映して頂けるよう代表者に伝えている。	会議以外にも話し合う機会は多々あり、随時職員の意見を聞く機会をつくって意見交換し、反映できるように努力されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職場の勤務状況を把握し向上心を持って働けるように職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアを通して良いサービスが出来るように職員に研修を勧め、レベルアップにつながるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの勉強会や情報交換を定期的に行い交流を図っている。また、他グループホームとの人事ペアリングにより、長所を取り入れサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際、ご本人らしく生活出来るように要望等を聞き、コミュニケーションを図りながら安心できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、要望等を理解し、家族ともコミュニケーションを図りながら、意向に沿えるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮している中で、お世話させて頂くという気持ちを持ちながら、不安にならないように傾聴し、一人一人に合わせた支援に努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況や、要望等は、都度伝えている他、2ヶ月に1度どのように過ごされているかお手紙にて報告し安心して頂けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、外出や電話での会話等をして頂き、昔の思い出や今までの関係が途切れないよう援助している。	地域の集まりに入居後も継続して参加されている方や友人が度々面会に訪れてくれる方、家族とお盆を過ごす方、友人との電話や手紙のやり取り等々、利用者がこれまで大切にしてきた人との関わりが途切れないように支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人を理解し、トラブルにならないような良い環境作りに努めている。トラブルになってしまった場合はすぐに仲裁しお互いの意見を取り入れながら今後につなげている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や帰宅等により終了しても、お見舞いへ出向いたり、家族からの電話での相談を受けたりと関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を理解し、ご本人の要望を聞き入れながら、意向に沿えるように努めている。	家族からの情報や利用者との日々の会話の中から意向を引き出し、利用者の思いに沿った生活ができるよう検討されています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様より、これまでの情報やバックグラウンドを参考にし、これまでの暮らしを把握するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報やご本人の希望をもとに、実際の生活を見ながら、自立と、介助が必要な部分の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の要望、ご家族の要望、生活の中で情報をもとに、ケアカンファレンスにてアイデアを出し合っている。	短期目標に基づいた支援を行い、状況に応じて随時見直しをされています。毎月行われるカンファレンスで職員が意見を出し合って見直しに繋がっています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄等、一人一人の情報を記録し、職員間で共有しながら、ケアプランにつなげている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での外食や買い物、出張理髪、訪問歯科等の利用をし安全で豊かな暮らしの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・ご家族の希望を大切にし、納得のいく医療を受けられる様に支援している。かかりつけ薬局との関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望に応じて対応されており、入居前からの医療機関で受診されています。家族の協力も得られています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回健康チェックに訪れており、相談等行い、適切に受診している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会をする事で、安心して入院治療を受ける事が出来るよう努めている。病院側も相談や情報交換する事により、早期に退院が出来るよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針に関して、医師、訪問看護師、ご家族等と話し合い方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	現在対象の利用者がおられ、かかりつけ医、家族等関係者が終末期に向けた支援に取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の消防署主催の救命講習に、全員が参加する場を設けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署へ依頼し、立会いのもと、防災避難訓練を日中と夜間を想定し少ない人数でも出来るよう訓練している。	震災を機に入浴後の浴槽に水を張り、食料も備蓄されています。各居室に利用者の状態がわかる目印が付けられ、避難場所についても話し合われています。緊急時には地域住民の協力が得られることになってはいるものの、訓練には参加されておりません。	災害に対する意識付けを図り、緊急時に避難口の開錠が簡単にできる工夫及び、安全に通行できる避難経路の確保を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけに十分に配慮し、危険な行動以外否定せず、傷つけないように支援に努めている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を心掛けている。	馴れ合いに気をつけて対応し、トイレ誘導の声かけ、入浴時の同性介助にも配慮されています。	居室内の排泄用品が目につく場所に置かれている状態であり、保管の仕方に配慮されることを期待します。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・要望等を出来るだけ聞きだし、することが出来るよう傾聴し意思の尊重している。【買い物・外出】		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様にあったケアについて、常に考え、本人のペースが保たれるように心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、理容店へ送迎又は、出張してもらい、本人が着たい服と一緒に選び、意見と尊重した支援を心掛けている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や果物を取り入れて目でも食事が楽しめるように心掛けている。介護員と一緒に食事をし食材・味付け・採れた場所の話をし、好みの把握に活かしている。	献立は利用者の希望や嗜好に配慮されています。下拵えや後片付け等、できることをさせていただいて残存能力を活かした取り組みをされており、食材の買い物に同行したり、外食を取り入れて楽しみに繋げています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えて献立を決めている。1日の水分摂取量を記録し、十分な補給ができるよう努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導で、本人やできる方には見守りし清潔が保持できるよう、食後のケアの援助と、定期的な義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン・習慣を活かして、2～3時間に1度の割合でトイレへの声かけや、誘導を行って、トイレでの排泄や自立に向け支援を行っている。	個々のパターンに合わせた声かけや定時誘導を行い、トイレでの排泄を支援されています。夜間も良眠を妨げないように対応されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師に相談し、便通の良い食事や飲み物を提供し、予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の健康状態・体調を把握し、本人の希望に沿った援助に努めている。	週2～3回の入浴を支援されており、拒否される方には声かけ等に工夫しながら週1回は入浴できるように対応されています。就寝前の入浴を希望されても対応できるように話し合われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて、声かけし休んでもらい、夜間は巡回し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りを確実にし、処方内容も介護記録の中に綴じてあり、全介護員が把握し疑問等があれば、薬局に相談できる状態にある。服薬の支援と症状の悪化防止に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を把握し、生きがいのある生活ができるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やドライブなどの外出の機会を増やすよう支援している。又、本人の希望に沿うよう努めている。	季節の行事を企画してドライブや外出に出かけている他、周辺の散歩やユニット間の往来をして戸外に出られるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際など、出来る限り本人がお金を所持し、支払いが出来るように努めている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人自らが、ご家族に電話出来るよう支援している。又、年賀状を書いて頂いたりしてやり取りが出来るよう努めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を配置したり、行事の写真を皆が見られるように、廊下に掲示したりし、季節感を取り入れて工夫している。	ホールは採光が確保されてカーテンで日差しを調整されており、居室と共に、床暖による乾燥を防ぐ工夫がみられます。廊下には外出時の利用者の楽しそうな様子が窺える写真が貼り出されており、職員はできる限り早めに掲示して、利用者に見ていただけるように配慮されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール自席の他に、ソファや椅子を何ヶ所かに置いて、利用者様同士で思い思いに過ごせるような居場所作りを工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地よく過ごす事が出来るよう、使い慣れた物に囲まれ、安心して生活出来るように、本人の動きやすさ等、考慮した環境作りに努めている。	持ち物の少ない利用者には昔風のタンスが提供されている他、椅子や座椅子を置いて個々の生活スタイルで過ごせる居室づくりをされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無い床、廊下には手すりを設け、自立した歩行が出来る環境の整備に努めている。トイレや居室には、プレートを使用し、分かりやすいように工夫している。		